PRIMEQUEST 3000シリーズ ファームウェアアップデート 手順書

13版 2025年1月 エフサステクノロジーズ株式会社

はじめに 事前準備 ファームウェアアップデート手順 事後作業



1. はじめに (1/7)

1-1. 統合ファームウェアファイル

PRIMEQUEST 3000シリーズのファームウェアをアップデートする場合には、統合ファームウェアファイルを使用します。 統合ファームウェアファイルは以下の3つのファームウェアの同梱により構成されています。

- MMBファームウェア
- iRMCファームウェア
- BIOSファームウェア

MMB

BIOS

Unified
firmware

ファイル名: PRIMEQUEST_PAnnnn.tar.gz (PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/ 3400E/3400L/3800E/3800Lの場合)

PRIMEQUEST_PBnnnn.tar.gz (PRIMEQUEST 3400S2 Lite/3400S2/ 3400E2/3400L2/3800E2/3800L2の場合)

nnnnn: 統合ファームウェア版数



1. はじめに (2/7)

1-2. ファームウェアアップデート

統合ファームウェアのアップデートが実行されると、筐体に搭載されている全てのMMBファームウェア、iRMCファームウェ アおよびBIOSファームウェアがアップデートされます。



1. はじめに (3/7)



1-3. パーティション状態

統合ファームウェアのアップデートが開始されるとき、筐体内に搭載されている各々のパーティションは以下の3つの状態の中のどれかの状態に該当しなければなりません。

- Power Off
- Boot
- OS Running

[注意事項]

ファームウェアアップデートが実行されている間は、該当パーティションの電源Offまたは電源Onを実施してはいけません。

1. はじめに (4/7)



1-4. 新ファームウェア版数に切り替わるタイミング

新ファームウェア版数に切り替わるタイミングは以下に示す通りです。

ファームウェアアップデート開始時のシステム構成およびパーティション状態によって、新ファームウェア版数に切り替わるタイミングが 異なります。

・ファームウェアアップデート開始時のパーティション状態が、全パーティション: Power Offの場合

MMB 構成	ファームウェア種別		
	ММВ	iRMC、BIOS	
1重化	ファームウェアアップデート実施中 (iRMC, BIOSがアップデートされる前)	ファームウェアアップデートが完了したとき	
2重化	11	11	

・ファームウェアアップデート開始時のパーティション状態が、1つ以上のパーティション: BootまたはOS Runningの場合

MMB 構成	ファームウェア種別				
	ММВ	iRMC、BIOS			
1重化	ファームウェアアップデート完了後、 全てのパーティションが"Power Off"状態に遷移したとき	ファームウェアアップデート完了後、 全てのパーティションが"Power Off"状態に遷移したとき			
2重化	ファームウェアアップデート実施中 (iRMC, BIOSがアップデートされる前)	・開始時の状態が Power Offのパーティション: ファームウェアアップデート完了時 ・開始時の状態がBootまたはOS Runningのパーティション: ファームウェアアップデート完了後、 該当パーティションが"Power Off"状態に遷移したとき			

1. はじめに (5/7)



1-5. ファームウェアアップデート時間

以下に2つの構成例おけるファームウェアアップデート時間を示します。 いずれも目安時間であり、記載された時間でファームウェアアップデートが完了することを示すものではありません。

[MMB 2重化、SB x4台の場合]

BIOS	: 12
iRMC	: 21
MMB	: 67
合計	: 100
MMB 1重化、	SB x2台の場合]
BIOS	: 6
iRMC	: 12
MMB	: 30
合計	: 48
※上言	己に示した時間単位:分

1. はじめに (6/7)



1-6.ファームウェアをダウングレードする場合の注意事項

PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/3400E/3400L/3800E/3800LでPA19121以降からPA19091以前のファームウェアにダウングレードする場合、 ダウングレードする版数のファームウェアのアップデート(*1)をさらに1回実施し、 計2回のアップデート(*1)が完了後、装置をAC OFF/ONする必要があります。 詳細手順は **5. ダウングレード手順** を参照してください。

*1)オンラインファームウェアアップデートは使用できません。

[上記作業が必要な理由]

PA19121のファームウェアにおいて、BIOSファームウェアにIntel®MEファームウェア(*2)に関する脆弱性の修正 が取り込まれており、BIOSファームウェアがダウングレードする場合、AC OFF/ONの作業が必要になります。 また、PRIMEQUESTは、BIOSファームウェアを格納するROMが2つあります。2つのROMにあるBIOSファーム ウェアを同時にダウングレードするため、2回のアップデートを実施する必要があります。

*2) Intel®MEファームウェアはBIOSファームウェア内にあります。

1. はじめに (7/7)



1-7.ファームウェアをダウングレードする場合の注意事項(2)

PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/3400E/3400L/3800E/3800LでPA24091以降を適用、もしくは PRIMEQUEST 3400S2 Lite/3400S2/3400E2/3400L2/3800E2/3800L2でPB24092以降を適用 した装置を、PA23071/PB23071以前の本体ファームウェアにダウングレードを実行して運用していた後、再度 PA24091/PB24092へのアップデートを行った際には、ダウングレード中に発生していた過去のエラー情報を再通 報してしまう場合がありますので、ファームウェアアップデートを実行する前にSystem Event LogのClearを実施し てください。

前述に該当するダウングレードを行っていない装置へのPA24091/PB24092へのアップデートでは本手順は不要 です。

■下記の手順で解除を行ってください。

- [System Event Log] 画面を出します。 1)
- [Clear All Events] ボタンをクリックします。 2)

参照マニュアル:

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/ ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB) (CA92344-1657) 2.3.2 [System Event Log]画面

2. 事前準備 (1/11)



- Web-UI を操作してファームウェアアップデートの一連の作業を実行するため、作業期間中、 管理LAN に接続した作業用パソコンを一台割りつけてください。
- ファームウェアアップデートで使うファームウェアファイルをダウンロードして、作業用パソコンに置いてください。ファームウェアファイルは以下のURLからダウンロードできます。
 https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/3000-bios/
- MMB Web-UI のPower Restoration Policy が「Always ON」でないことを確認してく ださい。「Always ON」になっている場合は「Always OFF」に変更してください。
- スケジュール運転機構を使用している場合、ファームウェアアップデートを行なう時間帯と、対象装置のスケジュール運転機構による電源操作スケジュールが重なっていないことを確認してください。スケジュールが重なっている場合、スケジュール運転を事前にオフにしてください。
- UEFIメニューのIntel TXT Supportが「Enabled」でないことを確認してください。 「Enabled」になっている場合は「Disabled」に変更してください。



 特定のパーティション構成でのReserved SB設定について
 PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/3400E/3400L/3800E/3800LでPA19071以前のファームウェア からアップデートする、かつ、MMB二重化構成、
 かつ、オンラインファームウェアアップデートを実施するケースにおいて、下記のパーティション構成条件に当てはまる 場合は、Reserved SB設定の解除をお願い致します。

[パーティション構成条件]

同一のSBをReserved SBとして、また他パーティションの構成SBとして兼用している場合

(Free SBをReserved SBとして設定している場合は対象外)

例) パーティション構成例

下記は、P#0のSB#3がReserved SBとして設定されており、また、SB#3がP#1の構成SBとして定義 されているケースを示しています。

パーティション	SB				B		
	#0	#1	#2	#3			
P#0	0	0	0	\checkmark			
P#1				0			
P#2							
P#3					● : Reserved SBとして設定されているSB		
Reserved				•	○ : パーティションに定義されているSB		
Free					✓ : パーティションに設定されているReserved SE		



🚺 Fsas Technologies

• Reserved SB設定解除手順

下記の手順で解除を行ってください。

Reserved SBの解除はOS運用中でも設定可能です。

- 1) [Reserved SB Configuration] 画面を出します
- 2) 解除後の再設定に備え、現在のReserved SBの設定状態を記録します。
- 3) Reserved SB の対象とするパーティションのチェックボックスをオフにします。
- 4) [Apply] ボタンをクリックします

参照マニュアル:

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/cat alog/

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB)(CA92344-1657)

2.4.7 [Reserved SB Configuration]画面



- SBの正常確認について 装置に搭載されている各SBが正常であることを確認してください。
 MMB Web-UI のSystem >System Status 及びSB で StatusがOKであることを確認します。
- MMBの物理IP無効について PRIMEQUEST 3400S Lite/3400S/3400E/3400L/3800E/3800LでPA18091以前のファームウェアか らアップデートする、かつ、MMB二重化構成、 かつ、MMBの物理IPアドレスが設定されており、また、有効(Enable)になっている場合は、MMBの物理IPを無 効(Disable)に変更してください。



MMBの物理IP無効手順

下記の手順で無効(Disable)に設定してください。

- [IPv4 Interface] 画面を出します
- 無効後の再有効化に備え、現在の設定状態を記録します。
- [MMB#0 IP Address]の[Interface]をDisableにチェックします。
- [MMB#1 IP Address]の[Interface]をDisableにチェックします。
- 「Apply] ボタンをクリックします
- 1) 2) 3) 5) 7) 8) [IPv6 Interface]画面を出します
- 無効後の再有効化に備え、現在の設定状態を記録します。
- [MMB#0 IP Address]の[Interface]をDisableにチェックします。
- 「MMB#1 IP Address」の「Interface」をDisableにチェックします。
- [Apply] ボタンをクリックします 10)

参照マニュアル:

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog

ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB)(CA92344-1657) 2.6.2.1 [IPv4 Interface] 画面 2.6.2.2 [IPv6 Interface] 画面



- System Event Logの採取(Collect)について
 PRIMEQUEST 3400S Lite / 3400S / 3400E / 3800E / 3400L / 3800L で本体ファームウェア版数
 PA19121 ~ PA20021を使用している場合、または、PRIMEQUEST 3400S2 Lite / 3400S2 /
 - 3400E2 / 3800E2 / 3400L2 / 3800L2 で本体ファームウェア版数PB19123 ~ PB20021を使用している場合、System Event Logの採取(Collect)を行ってください。

2. 事前準備 (7/11)



- System Event Logの採取(Collect)手順
 - 下記の手順でSystem Event Logの採取(Collect)をしてください。
 - 1) [System Event Log] 画面を出します。
 - 2) [Collect] ボタンをクリックすると[I_00417 Are you sure?] メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。
 - 3) システムイベントログ情報の採取が自動的に開始し、[Progress] 画面が表示されます。

[Progress] 画面ではなく、以前に採取したイベントデータに対するリンクが日付情報つきで表示された場合、 [Re-Collect] ボタンをクリックします。 [I_00417 Are you sure?] メッセージが表示されるので、 [OK] ボタ ンをクリックします。 システムイベントログ情報の採取が自動的に開始し、 [Progress] 画面が表示されます。

- 4) [System Event Log (Collect)] 画面が表示され、採取したイベントデータに対するリンクが日付情報つき で表示されます。
- 5) リンクをクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。ファイル名、パスを指定し、Web-UIを表示している PCにイベントデータをダウンロードします。

参照マニュアル:

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/</u> ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB)(CA92344-1657) 2.3.2 [System Event Log] 画面



PRIMECLUSTER使用時の注意事項について

PRIMECLUSTERを使用している場合、かつ、PRIMEQUEST 3400S Lite / 3400S / 3400E / 3800E / 3400L / 3800L でPA20061以前の本体ファームウェア版数を使用している場合、または、PRIMEQUEST 3400S2 Lite / 3400S2 / 3400E2 / 3800E2 / 3400L2 / 3800L2 でPB20061以前の本体ファーム ウェア版数を使用している場合は、ファームウェアアップデートの実施の前に、下記のいずれかの作業を実施してくだ さい。

【オンラインアップデート実施の場合】

・MMB Reset (作業手順は、「6.MMBのReset方法」を参照)

【オフラインアップデート実施の場合】

・稼働パーティションのシャットダウンを実施後、AC電源のオフ・オン (AC電源のオフ・オンは、事前準備を実施した後、ファームウェアアップデート作業を実施する前に、実施してください。作業手順は、「5.ダウングレード手順 (2/2)」を参照ください。)



【Base Unitの電源を後から投入した状態でない場合】 通常のファームウェアアップデートが可能です 【Base Unitの電源を後から投入した状態の場合】 ファームウェアアップデートの実施の前に、AC電源のオフ・オン(*1)の作業が必要になります。

【注意】 Base Unitの電源を後から投入した状態でないことを確認できない場合は、安全のため、ファームウェアアップデートの実施の前に、AC電源のオフ・オン(*1)の作業を実施ください。

*1) AC電源のオフ・オンは、事前準備を実施した後、ファームウェアアップデート作業を実施 する前に、実施してください。AC電源のオフ・オンの作業手順については、 「5.ダウングレード手順(2/2)」を参照ください。



• Base Unitの電源を後から投入した状態でないことの確認手順(1/2)

1) MMB Web-UIにログインする。

2) [System Event Log] 画面を表示させます。

- 3) [Filter] ボタンをクリックし、 [System Event Log Filtering Condition] 画面を表示させます。
- 4) SeverityをInfoのみにし、UnitをSpecifiedにしてMMB#0とMMB#1にチェックを入れ、Number of events to display を3000として、[Apply] ボタンをクリックし、フィルタを設定します。
- 5) [System Event Log] 画面が表示され、MMB#0,MMB#1のInfoのイベントのみが表示されます。以下の3つのイベントのセットがAC-Onイベントであり、あった場合は、最新イベントの発生日時をメモします。

Severity	Unit	Source	Event ID	Description
Info	MMB#O	MMB#0	2C6F04FF	FRU Active
Info	MMB#O	MMB#0	150700FF	Transition to OK
Info	MMB#1	MMB#1	2C6F04FF	FRU Active

- ※1) 上記のイベントはMMB#0がActive時にAC-Onしたときのイベントです。 MMB#1がActiveの場合は、ユニット番号を0⇔1に読み替えてください。
- ※2) 3つのイベントの間に別のイベントが記録される場合があります。
 - 3つのイベントは、連続で記録されない場合があることに注意してください。

AC-Onイベントがない場合は、イベントが上書きされているか、SEL クリアにより、 AC-Off/Onした形跡が残っていませんので判断ができません。 安全のため、ファームウェアアップデートを行う前にAC電源のオフ・オンが必要になります。 (次ページに続きます)

2. 事前準備 (11/11)



Base Unitの電源を後から投入した状態でないことの確認手順(2/2)

- 6) [Filter] ボタンをクリックし、 [System Event Log Filtering Condition] 画面を表示させます。 7) SeverityをInfoのみにし、 UnitをAllにして、 Number of events to display を3000として、 [Apply] ボタンをク リックし、 フィルタを設定します。
- 8) [System Event Log] 画面が表示され、Infoのイベントのみが表示されます。 以下のイベントがあった場合は、最新イベントの発生日時をメモします。

Severity Unit Source Event ID Description Base_Unit | C8A14002 | Power Supply input is restored Svstem Info

イベントがない場合は、Base_Unitの電源を後から投入した状態ではありませんので、ファームウェアアップデート作業 が可能です。ここで確認作業が終了になります。

フィルタ設定を元に戻すため、 [Filter] ボタンをクリックし、 [System Event Log Filtering Condition] 画面を表 示して、フィルタ設定を元に戻してから[Apply]ボタンをクリックします。 この確認後、MMB Web-UIからLogoutする場合は、フィルタ設定を元に戻す必要はありません。

9)メモした2つのイベント発生日時を比較します。 5)で採取したイベント発生日時の方が新しいイベントであれば、Base_Unitの電源を後から投入した状態ではありませ んので、ファームウェアアップデート作業が可能です。 (手順終わり)

参照マニュアル:

https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/

ハードウェアマニュアル 運用管理ツ<u>ール</u>リファレンス(MMB) (CA92344-1657)

2.3.2 [System Event Log] 画面

3. ファームウェアアップデート手順(1/10)



• ご案内

本手順の説明に使用しているWeb-UIの画面は、PRIMEQUEST 3800Eモデルを使用しているため、 PRIMEQUEST 3800EのModel名やファームウェア版数で記述されています。 他のモデルでも手順は同じであるため、ご使用のモデルのModel名やファームウェア版数に読み替えてご使用ください。

3. ファームウェアアップデート手順(2/10)



3-1. ナビゲーションバーを以下の順にクリックしてください。 Maintenance \rightarrow Firmware Update \rightarrow Unified Firmware Update

System Partition User Admin >Maintenance >Firmware Update □ Unified Firmware Update	stration <u>Network Configuration Maintenance</u> e >Unified Firmware Update Unified Firmware Update	Logout
Backup/Restore Configurati Maintenance Wizard REMCS	Select a unified firmware file.	Browse
3-2. 統 ・統合 または ・[Bro	合ファームウェアファイル ファームウェアが格納されてい wse]ボタンをクリックし、ファ-	を選択してください。 るフルパスを入力 イルを選択
×	Update Cancel	

3-3. [Update]ボタンをクリックしてください。 【注意】 ・https接続の場合は、[Update]ボタンをクリック後、Information領域がグレーになった後、90秒以内に ブラウザの「フレームを再読み込み」を実行してください。 ・http接続の場合は、ブラウザの「フレームを再読み込み」操作は不要です。

3. ファームウェアアップデート手順(3/10)



3-4. しばらく待ってください					
<u>System</u> <u>Partition</u> <u>User Admi</u> >Maintenance >Firmware Upd	inistration <u>Network Configuration</u> <u>Maintenance</u> <u>L</u> late >Unified Firmware Update	ogout			
 Firmware Update Unified Firmware Update Restore Configuration 	Unified Firmware Update	Help			
 Maintenance Wizard REMCS 	The firmware is being uploaded now. Please wait for a while.				
<					

3. ファームウェアアップデート手順(4/10)





3. ファームウェアアップデート手順(5/10)





3. ファームウェアアップデート手順(6/10)





3-9.

[MMB 2重化構成の場合]

プログレスバーが表示され、アップデート開始から約40分後

(プログレスバー:20%)に強制的にWeb-UIからログオフされます。

このとき、該当ダイアログが表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。

ログインは強制ログオフ直後から可能ですが、MMBのスイッチオーバーが行われるため、またすぐにWeb-UIに接続できなくなります。

強制ログオフから約7分後に継続的にログイン可能となりますが、アップデート開始から約60分後(プログレスバー:40%)に再び強制的にWeb-UIからログオフされます。

この時も、強制ログオフから約7分後に継続的にログイン可能となります。

MMB両系のファームウェアをアップデートするため、本手順は一連のファームウェアアップデート手順の中で 2回発生します。

3. ファームウェアアップデート手順(7/10)





3-9.

- [MMB 1重化構成の場合]
- 全パーティションが"Power Off"状態でファームウェアアップデートを開始したとき、プログレスバーが表示 され、アップデート開始から約15分後(プログレスバー:40%) に強制的にWeb-UIからログオフされます。 このとき、該当ダイアログが表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。
- ログインは強制ログオフ直後から可能ですが、MMBのリブートが行われるため、またWeb-UIに接続できなくなります。
 - 継続的にログイン可能となるのはアップデート開始から約30分後となります。
- 1つ以上のパーティションが"Boot"または"OS Running"状態でファームウェアアップデートを開始したとき、本手順および3-10, 3-11は発生しません。

3. ファームウェアアップデート手順(8/10)



3-11. ログイン後、ナビゲーションバーから[Unified Firmware Update]メニューをクリックしてください。 MMBが2重化構成の場合、本手順は2回発生します。

Fsas Technologies

3. ファームウェアアップデート手順(9/10)





3. ファームウェアアップデート手順(10/10)



3-14. "Firmware Information" ウィンドウからアップデート後のMMB, iRMC, BIOSのファームウェ ア版数、統合ファームウェア版数を確認します。

3-15.オンラインアップデートを実施した後に一番上のUnified Firmware Versionが旧版数(新版数)で 表示される場合、アップデート作業中に起動中だった全パーティションのパワーオフ/オンを実施してください。

【注意】

・MMB 1重化構成、かつ、MMBの統合ファームウェア版数(一番右のUnified Firmware Version欄)が旧版数で表示される場合 は、全パーティションを同時にパワーオフしてください。

・パワーオフ/オン操作時、以下を確認します。

パーティションのパワーオフ後、パーティションに属する全SBのiRMCとBIOSの統合ファームウェア版数(一番右のUnified Firmware Version欄)がアップデート後の統合ファームウェア版数に切り替わっていることを確認してから、パワーオンを実施します(*)。

*)上記の切り替わり前にパワーオンした場合、System Progress(MMB Web-UI >Partition >Power Control)がResetより先に進まなくなり、OSが起動しません。この状態を復旧させるためには以下の操作を実施します。

①該当のパーティションをForce Power Off(MMB Web-UI >Partition >Power Control)でパワーオフします。

②Force Power Offによるパワーオフが完了してから、再度、パワーオンを実施します。

Fsas Technologies

4. 事後作業



- スケジュール運転や「Always ON」を解除していた場合は、再度有効にしてください。
 Intel TXT Supportを事前作業で「Disabled」に変更していた場合、「Enabled」に設定してください。MMBの物理IPを無効に変更していた場合、再度有効にしてください。
- 特定のパーティション構成でのReserved SB再設定について
 事前作業において、Reserved SBの設定を解除した場合は、全パーティションをパワーオフした後に再設定してください。
 再設定のタイミングは、パーティションのパワーオン前、後どちらでも構いません。
- Reserved SBの再設定手順 以下の手順でReserved SBの再設定を行ってください。 Reserved SBの再設定はOS運用中でも設定可能です。
 - 1) [Reserved SB Configuration] 画面を出します。
 - 2) 事前作業の解除手順2)で記録したReserved SB の設定状態に合わせ、 Reserved SB の対象とするパーティションのチェックボックスをオンにします。
 - 3) [Apply]ボタンをクリックします。

参照マニュアル:

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/</u> ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB)(CA92344-1657) 2.4.7 [Reserved SB Configuration]画面

5. ダウングレード手順(1/2)

- ・ 以下の手順で実施してください。
- a) 2.事前準備を実施します。 オンラインファームウェアアップデートは使用できないため、 2.事前準備(2/11)~(3/11)のReserved SB設定の解除は不要です。 b)ダウングレードしたい 統合ファームウェアファイルで 3.アップデート手順の(1/10)~(10/10)を実施します。 (10/10)の完了を確認後、c)の作業を実施します。 c) ダウングレードしたい統合ファームウェアファイルで 再度、3.アップデート手順の(1/10)~(10/10)を実施します。 (10/10)の完了を確認後、d)の作業を実施します。 d) 装置のAC電源をオフ(*)します。PSUのLED消灯を待って、AC電源をオン(*)します。 AC電源オンにしてから、MMBのReady LED点灯を待って、Web-UIにログオンします。 e) 3.アップデート手順の(10/10)に記載の3-14作業を実施します。 "Firmware Information" ウィンドウで、MMB, iRMC, BIOSのファームウェア版数
- がダウングレードしたい版数となっていることを確認後、f)の作業を実施します。 f) 4.事後作業を実施します。 2.事前準備(2/11)~(3/11)の作業を実施していないので、 Reserved SBの再設定は不要です。
- *) AC電源のオフ・オンの手順は次ページを参照してください。



5. ダウングレード手順(2/2)



• AC電源のオフ・オンは、以下の手順で実施してください。

「AC電源のオフ」

- a) MMB_Disk_Unit搭載PSU_Mの電源ケーブルをすべて取り外します。 b) Base_Unit搭載PSUの電源ケーブルをすべて取り外します。
- PSUのLED消灯を待ちます。

「AC電源のオン」

- a) Base_Unit搭載PSUの電源ケーブルをすべて取り付けます。
- b) MMB_Disk_Unit搭載PSU_Mの電源ケーブルをすべて取り付けます。
- c) MMBのReady LED点灯を待ちます。

「注意事項」

AC電源のオフ・オンを実施した場合、PSU関連のイベントログが記録されます。 このイベントログに対する対処は不要です。電源ケーブルを取り外したことにより、 メッセージが記録されるためです。

- アップデートの途中で失敗した場合は、ダウングレード手順を最初からやりなおしてください。
- アップデートの途中で失敗した後で、ダウングレードを中止して元の版数に戻す場合は、 通常のファームウェアアップデート手順を1回だけ実施してください。



• 注意事項 MMB#0がActive MMBの場合の手順を示します。 Active MMBが異なる場合は、MMB#0⇔MMB#1を読み替えて実行してください。 上記の手順を実施中に、ごく稀にMMB がダウンする可能性があります。 その場合は、以下の手順により異常を解消してください。 【MMB 2 重の場合】 MMBがFirmware errorとなった場合は、以下の手順により異常を解消してください。 ・再度、MMBのResetを実施(「6.MMB のReset 方法」の3)からの実施) 【MMB 1 重の場合】 MMBのAlarmのLEDが点灯し、MMB Web-UIに再接続できなくなります。 以下の手順により異常を解消してください。 ・稼働パーティションのシャットダウンを実施後、AC電源のオフ・オン(作業手順は、 「5.ダウングレード手順(2/2)」を参照)を実施

参照マニュアル:

<u>https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/</u> ハードウェアマニュアル 運用管理ツールリファレンス(MMB)(CA92344-1657) 2.3.18 [MMB]メニュー



【MMB 2重の場合】

- 1) MMB Web-UIにログインする。
- Active MMB画面(MMB#0)を開き、Standby MMBに切り替えます。 Switch Over to another MMBのチェックボックスを選択し、Apply ボタンをクリックする。
 3) 2)の操作から15分程度、経過後(※1)、再度MMB Web-UIにログインする。 MMB#0画面(Standby MMB)を開き、Resetします。

Reset the MMBのチェックボックスを選択し、Apply ボタンをクリックする。

- ※1)Switch Over to another MMB実施後、Reset MMBを実施する場合は、15分程度空けてから実施いただく ´必要があります
- 4) リセット処理が完了したことを確認します。 Web-UIの MMB > MMB#0 を表示して、項目(※2)が正しく表示されることを確認します。
 - ※2) ·Part Number
 - •Serial Number
 - Firmware Version
 - Enable

【MMB 1重の場合】

- 1) MMB画面を開き、Resetします。
- Reset the MMBのチェックボックスを選択し、Apply ボタンをクリックしてください。
 2) リセット処理が完了したことを確認します。
- Web-UIの MMB > MMB#0 を表示して、項目(※2)が正しく表示されることを確認します。

